

## 2019年度第2回町田市廃棄物減量等推進審議会 議事要旨

◇日時：2019年7月11日（木）18：30から20：30

◇場所：町田市役所2階2-2会議室

◇出席者

委員：山下委員（副会長）、江尻委員、篠木委員、富岡委員、青島委員、守谷委員、高橋委員、藤根委員、芦田委員、伏見委員

町田市：環境資源部長、循環型施設建設担当部長、環境政策課長、循環型施設整備課長、資源循環課長、3R推進課長、3R普及担当課長 外

◇傍聴者：なし

<次第>

### 1. 報告事項

- ① 2019年度第1回審議会議事要旨 . . . . 資料1
- ② 2018年度ごみ量の推移 . . . . 資料2

### 2. 議題

2018年度ごみ減量アクションプラン進捗点検まとめ  
. . . . 資料3～資料6

### 3. その他

<資料>

- 資料1 . . . . 2019年度第1回町田市廃棄物減量等推進審議会議事要旨
- 資料2 . . . . 2018年度ごみ量の推移について
- 資料3 . . . . 2018年度ごみ減量アクションプラン施策進捗点検票
- 資料4 . . . . 評価シート集計表
- 資料5 . . . . 施策に対する意見・提案事項と市回答
- 資料6 . . . . 2018年度一般廃棄物資源化基本計画の進捗点検の結果について（報告）（案）

## 【議事要旨】

永井会長が欠席のため、山下副会長が進行する。

### 1. 報告事項について〈事務局説明〉

(1) 2019 年度第 1 回審議会議事要旨（資料 1）

(2) 2018 年度ごみ量の推移（資料 2）

《意見》

委員：ごみ量の推移については、GDP 等での比較も必要なのではないか。

副会長：GDP や GRP の統計を持っていない自治体があるので、他の自治体との比較をする場合は、通常は住民一人あたりの量で比較をする。

委員：他の自治体との比較はしないのか。我々は町田市をトップにしたいという気持ちがある。市民にとっても他市との比較があった方がわかりやすいのではないか。この視点でも目標を設定してもいいのではないか。

副会長：毎年、多摩地域ごみ実態調査で他市との比較はできるはずだが、今回の資料ではその点の記述がない。多摩地域内の町田市の順位等は資料に加えた方がいいのではないか。

環境政策課長：次年度以降検討したい。

## 2. 議題

(1) 2018 年度ごみ減量アクションプラン進捗点検まとめ（資料 3～6）

【ターゲット 1：生ごみ】

〈評価について、副会長から説明〉

《意見》

なし

副会長：生ごみの評価は「C」とし、評価理由はこのままとする。

〈提案事項と今後の取組方針について、3R 普及担当課長から説明〉

《意見》

委員：生ごみ処理機とは、庭に置くものなのか、それとも家におくものなのか。

3R 推進課推進係長：家の中でも使用できる電動式と、外に置くコンポストタイプがある。居住形態にあわせて使いやすい方を選んで使用していただければと考えている。

委員：最近庭のない家が増えているので、コンポストタイプを増やしていくのには限界があるのではないか。アクションプランでは生ごみ処理機を毎年増やすことになっているが、厳しいのではないか。

3R 普及担当課長：使用している方のご意見等を聞いて、生活に応じて合うものを薦めている。ただ、生ごみ処理機はあくまで手法の一つであり、生ごみを減らすということ、発生抑制が最大のテーマなので、よりよい啓発方法について今後も考えていく必要があると認識している。

委員：生ごみ以外にも、リサイクルできない紙やプラスチック等も同様にごみとして減量を考える必要があるのではないかな。

副会長：アクションプランのターゲット1として減量を目標としているのは生ごみだけになる。しかし、その他のものについても別の施策が必要である。

委員：提案事項に「生ごみの混入量は減少傾向」とあるが、「混入量」だけでは意味がわからないので、表現を変えた方がわかりやすいのではないかな。

3R普及担当課長：ここでいう「混入量」とは、組成調査結果による「可燃ごみに含まれる生ごみの混入量」のことである。

副会長：わかりやすい表現に修正する。

委員：最近新築マンション等で、ディスプレイを設置している家庭が増えているようである。ディスプレイも生ごみが減った理由のひとつかもしれないので、検証していった方がいいのではないかな。

環境政策課長：ご意見を参考にさせていただきたい。

副会長：生ごみが減っている要因が啓発だけではない可能性もあるので、ディスプレイの普及状況等は調べておく必要があるのではないかな。

副会長：「生ごみ処理機からの生成物」という表現がわかりにくい。わかりやすく「たい肥」という表現にできないかな。

3R普及担当課長：生成物はたい肥とイコールではなく、「たい肥の素」の段階である。表現についてはわかりやすくなるように検討したい。

副会長：カッコ書で説明を付ける等により、分かりやすい表現に修正する。

## 【ターゲット2：紙類】

<評価について、副会長から説明>

《意見》

副会長：「混入割合」を「可燃ごみに含まれる紙類の混入割合」に変更した方がわかりやすい。

副会長：紙類の評価は「B」とする。

<提案事項と今後の取組方針について、3R普及担当課長から説明>

《意見》

委員：「目標値には届いていない」という表現はよくないのではないかな。審議会が機能していなかったと捉えられかねないのではないかな。

副会長：目標値に届いていないのは事実なので、そのままの表現でいいのではないかな。

- 委員：数値目標だけではなく、どのように努力をして、どれだけ成果が出たかの過程も評価してはどうか。
- 委員：雑がみについて、何が雑がみとして出せるのかの判断が非常に難しい。
- 3R 普及担当課長：雑がみとして出せるものと出せないものについてはチラシやホームページ等で啓発をしている。さらにわかりやすく周知ができるよう取り組んでいきたい。
- 委員：古紙は古紙問屋によって受け入れてもらえるものが異なるので、自治会での回収を行っている場合は、そこで依頼している業者に聞いた方がいい。業者から得た情報を自治会で回覧したり、配布したりすると効果的ではないか。
- 委員：「雑がみの仕分けは理解が難しい」となっているが、表現がわかりづらい。「雑紙として出せるものと出せないものの判断が難しい」という表現に変えてはどうか。
- 副会長：表現を修正する。
- 委員：資料3の進捗点検票の2019年度取組方針で、「ホームページ等」との記載があるが、ごみ分別アプリを普及させることでペーパーレスの啓発もできると思うので、「ホームページ、ごみ分別アプリ等」と書いた方がいいのではないか。
- 副会長：取組計画へ反映していただきたい。

### 【ターゲット3：事業系ごみ】

<評価について、副会長から説明>

《意見》

- 委員：業種によってごみ量、ごみ種は異なるものなのか。
- 3R 推進課長：飲食店では生ごみが多く、オフィスビルでは紙ごみ系が多い等、業種や規模によってごみの質は違う。
- 委員：ある大規模事業所の担当者から聞いた話によると、今年の夏は暑くない影響もあって売り上げが悪く、ごみ量が減少しているようである。同じ事業者でも年によってごみ量が違うこともある。
- また、事業系ごみの減量は順調に進んでいるが、今年の秋にはグランベリーパークがオープンするので、ごみ量への影響は大きいと思われる。
- 委員：事業系ごみは、あまり景気に左右されない飲食店を重点的にターゲットにすると効果があるのではないか。

副 会 長：事業系ごみの評価は「B」とし、評価理由はこのままとする。

<提案事項と今後の取組方針について、3R 推進課長から説明>

《意見》

委 員：課題として、「紙類の回収拠点設置のめどが立たない」となっているが、その理由や、代替案が示されていない。めどが立たないものへの対策は難しいのではないかと。

町田市の事業所のうち、約9割が中小企業なので、中小企業への訪問指導は重点的に行ってはどうか。

なお、今後の課題の中で、「商工会」とあるが、町田市は「商工会議所」である。修正してください。

3R 推進 課 長：公共施設への拠点設置は現在行っておらず、これからも非常に難しいと考えている。それ以外のことを検討していかないといけない。

委 員：公共施設のめどが立っていないのであれば、その旨書いた方がいいのではないかと。

副 会 長：公共施設への設置は完全にあきらめてしまっているのか。

3R 推進 課 長：今後市の施設は集約をしていく流れの中で、事業者の方たち向けの拠点をつくるというのはハードルが高い。

副 会 長：公共施設に設置ができないのであれば、その他の場所に設置するのは難しいのではないかと。

3R 推進 課 長：今後は拠点を新たに設置するのではなく、受け入れ可能な古紙問屋を案内していく等に力を入れていきたい。

委 員：自分の地域では、地域資源回収で事業所のダンボール等の資源も回収している。

3R 推進 課 長：事業所から出されるごみや資源は事業所が自己処理するのが大原則である。地域のつながりで事業者が自治会の資源回収に出しているという実態はあるようだが、あくまでも市の回収は家庭系のみである。

小規模事業者が資源を出しやすくするため、例えばイベントで集めるといったやり方も今後検討していかなくてはいけないと考えている。

委 員：中小企業に対して訪問指導をする際に、グループを作って集団で出せるような仕組みを市で作ったりはできないかと。

また、2018年度の3R賞の応募が1件しかないようなので、中小企業の訪問指導の際に応募を促してはどうか。

3R 推進 課 長：業種別のごみ質などを考えながら、啓発を行っていきたい。

委 員：古紙の回収拠点については代替を探す努力をするというような文言にしてはどうか。

委員：現在、中小企業からの新規契約は請け負わない回収業者が多いようである。回収業者は、ある程度まとまった量を出してもらえないと請け負えない。小規模事業者は、資源として排出したくても回収してもらえないため、結果的に燃やせるごみとして出されてしまう可能性もある。小規模事業者から出る資源の回収方法は、今後も模索していく必要がある。市と古紙問屋とで、どうしたら回収しやすくなるか等、意見交換会を行ってはどうか。

資源循環課長：古紙問屋に対しては年3回売払いの入札を行っている。その際に色々のご意見をいただく機会をつくりたい。

委員：提案事項については、回収拠点の設置にこだわらず、「事業者の古紙の回収方法について、関係者と継続して協議していく」等の表現に変えてはどうか。

副会長：指摘のあった文言や表現については修正する。

#### 【協働・パートナーシップ】

<評価について、副会長から説明>

《意見》

委員：イベントでの啓発については、実施するだけでなく、PRの仕方について更なる工夫をしてほしい。

副会長：協働・パートナーシップの評価は「B」とする。

<提案事項と今後の取組方針について、3R普及担当課長から説明>

《意見》

委員：提案事項の「コンビニ大手」という表現について、もし大手にこだわっていないのであれば、わかりづらいので「大手」は取ったほうがいいのではないか。

3R普及担当課長：大手に関わらず、コンビニとの連携を深めていきたいと考えている。

副会長：「大手」は取る。また、今後の課題に「イベント時のPR方法について工夫が必要」を加える。

### 3. その他

#### 《意見》

委員：プラスチックごみについての議論はこの審議会では行わないのか。

環境政策課長：次期計画策定の際には議論をしていく必要があると考えている。現在町田市では横浜線以南の地域のみ分別収集を行っているが、今後新たな資源化施設を建設し、全域での分別収集を開始する予定である。

副会長：今回のアクションプランの中にはプラスチックの施策がないが、次回以降の審議会では、次期計画策定についての審議が始まる。その際には必ず触れなくてはいけない議題になるだろう。

委員：次期計画は11月、1月、2月の3回の審議だけで策定するのか。スケジュールがタイトすぎるのではないか。

環境政策課総務係長：次期計画については、二カ年での策定を予定している。今年度は骨子の策定までを予定しており、来年度に具体的施策や施策の目標値等の議論を行う予定である。来年度は進捗点検も含めて、7回の審議会を予定している。

委員：計画期間が10年と長いので、議論を重ねて丁寧に作る必要がある。裏付けを持った目標設定も必要だろう。

#### 《事務連絡》

事務局：本日、ご議論いただいたことを踏まえ、事務局で報告書をまとめ、会長と副会長の了承のもと、市長への報告、ホームページ掲載を行う。次回、11月の審議会の日程についてはあらためて連絡する。

副会長：終了宣言